

達美の森倶楽部 「帯広市」



「原野商法」で切り売りされた森を守る

帯広市内で「ピンニの森」と名付けた森で活動しています。アイヌ語でピンは「割れる」、ニは「木」を意味し、ピンニとはヤチダモのことです。この森の中で一番太いヤチダモ、大人二人でも幹を抱えきれないほどの雌の木が、毎年どっさりタネを落とすものですから、ヤチダモの幼樹がたくさん生えている森です。

帯広市内で120年ほど前に撮影された写真を見ますと、このあたりがかつてはうっそうとした森林だったことが分かります。それが50年後、100年後と時間を経るごとに開発が進行し、十勝平野を覆っていた森林の大部分は農地に変換されてしまいました。現在は、海に浮かぶ小島のように小さな森がちよこちよこつと残っているだけ。森林面積は平野部の10%に満たない、というのが帯広市内の森林の状況です。

私たちが活動しているのは、幕別町との境目に近い、帯広市東北部に位置する約2haの小さな森です。1970年代にいわゆる原野商法の対象となって細切れに売却された土地で、所有者は私と、静岡県の方です。森の一部はカラマツ人工林、それ以外はハルニレ・ヤチダモが優占する湿性林です。

隣接する森は所有者が不明でしたが、最近になって東京の不動産会社を介して「売りたい」と打診がありました。他の人に再転売されて農地になってしまうと、ただでさえ小さな森がさらに狭くなりますので、買い取ることにしました。代金134万円を調達するのにクラウドファンディングを利用したところ120万円が集まり、無事に購入できました。交付金活動2年目の来年度から、この場所も含めて活動を進めていく計画です。

市民グループや地元施設と連携

森にはオオバナノエンレイソウの大きな群落があり、春になると一斉に花を咲かせます。林床一面が花で埋め尽くされる光景は十勝地方ならではの光景です。5月は野外で一番過ごしやすい季節でもあり、「十勝植物の会」との共催で、自然観察会を兼ねた「お花見会」を開いています。森にはピザ窯や、高さ3mほどのツリーデッキを用意しており、みなさんが楽しんでくれます。

また、近くの障害をもった児童のための施設「樹音（じゅね）」に協力して、年に数回、子どもたちを森に招いて、ネイチャーゲームや自然体験活動を中心にし

た自然教室を開いています。ネイチャーゲームでは、たとえば1枚の葉を見せて、「これと同じ形の葉っぱを探してみよう」と一緒に森の中に入ります。小さな子どもたちでも楽しく自然に触れあえる、有効な活動だと思います。さらに2011年からは毎年、夏休みに福島の子どもたちを森に招待しています。

いっぽう、林内の植生調査とリスト作りを進めています。このデータを使って、クラウドファンディングに寄付くださった方たちに森の様子を知らせるため、2017年3月から電子メールで届ける「ピンニの森通信」の発行を始めました。最新号は31号です。

「ピンニの森」のうちカラマツ人工林エリアは、これまで長く放置されていたせいで、かなり荒れた状態でした。2017年度は午前中に自然観察会、午後からカラマツ林の枝打ちやササ刈りなど、というプログラムを組んで整備を進めました。

こうした活動によって、子どもから大人まで、多くの人に森と触れ合う機会を提供できたと思います。健全な人工林の育成、生物多様性豊かな森づくりといった面でも貢献できたのではないかと思います。

今後は、たとえばあずまやを建てるということなどで、より多くの方が気軽に訪れることができる場づくりに取り組んでいきたいと考えています。

新たにクラウドファンディングで取得した土地の一部は皆伐されてしまっています。ここに植林をして大事に育て、豊かな森を再生していきたいと思っています。



報告者

中村 修一さん

